

THE ROOF



クリストファー・ドレッサー
左・《クラレットジャグ（ぶどう酒用容器）》
ガラス、金属、電気メッキ
製作：ヒューキン&ヒース社
右・《刻文舟形容器》
1892-95 頃 陶器
製作：オールト・ボタリー社



Contents

- 企画展「皇室を彩る美の世界～福島ゆかりの品々～」
- 企画展「アニメーション美術の創造者 新・山本二三展
～天空の城ラピュタ、火垂るの墓、もののけ姫、時をかける少女～」
- 寄稿「建築家柳澤孝彦氏と郡山市立美術館」
- 報告「第1回風土記の丘から 日本大学工学部建築学科卒業設計作品展」
- Report
- Information



【初公開】渡邊晨畝《慈愛》昭和11年（1936）国（皇居三の丸尚蔵館収蔵）※前期展示

皇室を彩る 美の世界

福島ゆかりの品々

Masterpieces from the Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan

この夏、皇室の名宝が郡山にやってきました！

「皇室を彩る美の世界 ―福島ゆかりの品々―」は、郡山市立美術館と皇居三の丸尚蔵館が共同で企画した展覧会です。

皇居三の丸尚蔵館は、皇室に伝わった品々を保存・調査研究・公開する施設です。収蔵品には絵画・書跡・工芸品など、古代から近現代に至るまでの各時代・各分野を代表する名品が多く含まれ、その数は約6,100件に及びます。今現在、皇居三の丸尚蔵館は休館中ですが、令和8年秋にはリニューアルを終えて全館開館の予定です。

この記事では、展覧会の各章から福島ゆかりの品々をご紹介します。

まず「第1章 皇室の文雅と江戸の美意識」では、さまざまな個性が花開いた江戸時代の美術をご紹介します。このうち、洋風画家として知られる司馬江漢や亜欧堂田善の作品は、明治天皇が東奥巡幸の際に須賀川の行在所に立ち寄り、御買い上げとなりました。

第2章では、明治期に描かれた記録性の高い洋画の数々をご紹介します。山本芳翠が描いた「磐梯山破裂之図」は、明治21（1888）年に

噴火した磐梯山を描いた作品。開館当初より近代洋画の調査・研究を続けてきた当館にとって、是非ともお借りしたい作品の一つでした。今回、当館所蔵の木口木版画「磐梯山噴火真図」と並べて皆様にご紹介できることを大変嬉しく思っています。

第3章では、日本近代美術を代表

展覧会概要

皇室を彩る美の世界 福島ゆかりの品々

2025年7月5日（土）～8月31日（日）

前期：7月5日（土）～8月3日（日） 後期：8月5日（火）～8月31日（日）

開館時間：9時30分～17時（展示室への入場は16時30分まで）

休館日：毎週月曜日（7月21日（月・祝）、8月11日（月・祝）は開館、翌日休館）

会場：郡山市立美術館

入場料：一般／1,200（960）円、高校・大学生、65歳以上／900（720）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：郡山市立美術館、皇居三の丸尚蔵館

特別協力：文化庁、紡ぐプロジェクト、読売新聞社



《浅葱麻地春秋景に御所車殿舎文様帷子》（秋父宮妃勢津子殿下遺品）
若松城天守閣郷土博物館所蔵

する作家たちの日本画や彫刻、工芸作品をご紹介します。なかには、精巧で可愛らしい菓子器・ボンボニールや、雅楽をテーマとした作品など、皇室ならではの作品も並びます。前期展示の《旭光帖》からは、三島町出身の日本画家・酒井三良の「雪国の春」という作品をご紹介します。会津の早春の風景を描いたほのぼのとした作品ですので、どうぞお見逃しなく。

そして第4章「福島ゆかりの品々」では、郡山出身の日本画家・渡邊晨畝と、

会津松平家から皇室に入った勢津子妃に焦点を当てます。

渡邊晨畝は、大正時代や戦前の日中美術外交の功労者として近年再評価されている画家ですが、彼の画業そのものについては注目されることはほとんどありませんでした。今回出品される作品も、かつて皇室に献上された作品や旧帝室博物館に寄贈された初公開作品ばかりです。

勢津子妃は昭和3（1928）年に秩父宮雍仁親王とご結婚されました。

祖父は最後の会津藩主、松平容保。ちょうど戊辰戦争の勃発から60年経ったこの時、長きにわたり「賊軍」の汚名を着せられていた会津の人々にとって、勢津子妃のご成婚はまさしく希望の光となったことでしょう。本展では若松城天守閣郷土博物館からも作品をお借りし、会津に伝わった勢津子妃御手製の書や陶芸作品、ご衣装などもご紹介します。

この貴重な機会に、皇室と福島を結ぶ美の世界を是非ご堪能ください。
（鈴木 えみこ）



【重要文化財】海野勝珉《蘭陵王置物》
明治23年（1890）国（皇居三の丸尚蔵館収蔵）



山本芳翠《磐梯山破裂之図》明治21（1888）年
油彩・キャンバス 国（皇居三の丸尚蔵館収蔵）



山本芳翠《磐梯山噴火之図》明治21（1888）年
木口木版・紙 郡山市立美術館収蔵

アニメーション美術の創造者

新・山本二三展

『天空の城ラピュタ』、火垂るの墓、もののけ姫、時をかける少女』

山本二三（1953—2023）は、

数々の名作アニメーション映画で美術監督を務め、多くの名場面の背景画を描きました。スクリーンのなかで登場人物たちが生き生きと動き回る舞台を作り上げる背景美術は、物語の世界観を視覚的に支え、ときに登場人物の繊細な心の動きをも映し出します。本展では、山本が手がけた詩情あふれる背景美術の世界をご紹介します。

長崎県五島列島の福江島に生まれた山本は、自然豊かなその島で少年期を過ごしました。岐阜県の工業高校に進学すると、建築を学びながら油彩画を描き始めます。その後アニメーション

の仕事を目指して上京、専門学校に通い、1974年、アニメーション制作会社に入社します。1978年には、24歳の若さで『未来少年コナン』の美術監督という大役を務めました。

宮崎駿監督『もののけ姫』（1997年）では、背景美術は物語の世界観を伝える重要な役割を果たしています。山本が描く深い森の緑、苔むした岩、しっとりとした空気感、静かな水面の反射—こうした描写は、リアルな自然を思わせる

と同時に、神秘的でまさに「神の住む場所」としての説得力をもち、私たちに畏敬の念を抱かせるのです（図1）。

背景という無言の存在が、登場人物以上の語り手となり、深い感情を喚起させることもあります。高畑勲監督『火垂るの墓』（1988年）では、美しく穏やかな日常風景（図2）が、戦禍によって荒廃していく様子と対比され、戦争の悲惨さを際立たせています。主人公たちの心情を静かに語る背景画には、観る者を引き込み、心を揺さぶる表現が追及されているのです。

山本の作品を特徴づけるもののひとつに、「雲」の表現があります。細田守監督『時をかける少女』（2006年）のポスター画でも雲が印象的です（図3）。光や空気を繊細にとらえたその描写は、「いつか見た、あの空」という感覚を呼び起こし、作品世界を超えて、多くの人に深い余韻を残すことでしよう。

山本二三の背景画は、物語に生命を吹き込むだけでなく、私たちの大切な記憶や心情にもそっと寄り添います。ぜひ、その味わい深い世界をご堪能いただければ幸いです。

（新田 量子）



図1 ものけ姫《ジシ神の森（2）》
1997年 © 1997 Hayao Miyazaki/Studio Ghibli, ND



図2 火垂るの墓《裏通り》
1988年 © 野坂昭如/新潮社, 1988

展覧会概要

アニメーション美術の創造者 新・山本二三展

2025年9月13日（土）～11月9日（日）

時 間：9時30分～17時00分（展示室への入場は16時30分まで）

休 館 日：毎週月曜日（9月15日、10月13日、11月3日は開館、
9月16日、10月14日、11月4日は休館）

会 場：郡山市立美術館

観 覧 料：一般/1,000（800）円 高校・大学生・65歳以上/700（560）円
*（ ）内は20名以上の団体料金
*中学生以下の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主 催：郡山市立美術館

協 力：絵映舎、日東電工

企 画：神戸新聞社



図3 時をかける少女《踏切》
2006年 © 「時をかける少女」製作委員会 2006

「建築家柳澤孝彦氏と郡山市立美術館」

(株)楽生活空間工房 永井 久夫 文化施設建築プロデューサー

はじめに

先ずは本年2月15日美術館でのトークイベントの際は、日大関係者、建築関係者、美術館を愛する皆様と多数お会いしお話しする機会をいただき感謝申し上げます。今回、重ねて寄稿させていただきます。

建築家柳澤孝彦氏が込めた気持ちを伝え出来ればと思います。

建築家柳澤孝彦氏とは

1935年長野県松本市生まれ。高校までの生活圏である北アルプスと安曇野の風土が原風景。東京藝術大学美術学部建築科に入学。1958年同卒業。竹中工務店入社。1968―69年渡米して設計活動。1981年竹中工務店東京本店設計部長。1985年同プリンシパル・アーキテクト。大手ゼネコン組織設計部員400人以上を束ねて活躍していました。約40年前、1986年「第二国立劇場（仮称）」（新国立劇場）国際設計競技で最優秀賞受賞を機に、(株)TAK建築・都市計画研究所を設立して独立。当時51歳。公共文化施設（劇場・ホールやミュージアム）を中心に数々の建築作品を設計し、主要建築賞をいくつも受賞しました。2017年没。享年82歳。

「プリンシパルがあつてプリンシパルな建築家」の仕事ぶり

私から見ると、柳澤孝彦氏は、「プリンシパルがあつてプリンシパルな建築家」です。そして現地現物現場主義です。設計コンペ案作成から竣工まで、全身全霊

の想いをカタチにする日々でした。現地・スケッチ・図面・模型・各種シミュレーション・現物・現場を繰り返します。竣工の翌年掲載された「新建築」1993年1月号の郡山市立美術館「設計ノート」P.176にその想いが語られています。キーワードを抽出して下記します。

- ・人と自然が相互に深く呼吸しあう環境づくりという意図を終始貫く
- ・郡山市街と風土記の丘を見渡す広域な空間の中に「新しい環境としての風景」をつくり出そうとする
- ・石の広場は自然の軸と建築の軸を交叉させたデザイン
- ・自然から建築へのシークエンスを表現
- ・水に映える光と影の動きに季節や時の変化の発見
- ・光を砕く「出目地を伴うホワイトコンクリート打放し」「ガラスのエッチング」
- ・建物100%、ランドスケープ100%、合計200%

郡山市立美術館は、建築家柳澤孝彦氏のマスターピース※

郡山市、美術館関係者はじめ設計施工関係者の想いが、まさに1995年「郡山市立美術館及び一連の美術館・記念館の建築設計」にて第51回「日本芸術院賞」の受賞となりました。他にも公共建築賞優秀賞、BCS賞、公共建築100選などがあります。そして郡山市立美術館は、

建築家柳澤孝彦氏にとつての「マスターピース」となりました。

竣工後33年。今後も多くの郡山市民や美術館ファンの皆様にアート作品とともに建築も愛されて益々ご発展されることを心より祈念しています。また機会があれば、内部空間や素材、美術品展示や保存に関してもお話ししたいと思っています。

※注釈

「マスターピース」masterpieceとは、「傑作」「名作」「代表作」という意味で、特に芸術や音楽、文学などの分野で、非常に高い評価を得た作品を指す。

以下は、出典…フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より抜粋

歴史的には、ギルドやアカデミーの会員資格を得るための、非常に高い水準を持った作品を指した。本来、「マスターピース」masterpieceとは、ヨーロッパでかつて行われていたギルド制度において、ギルドの会員としてふさわしい力量を持っているかどうかは、マスターピースによって審査され、それが認められれば、その作品はギルドに保管された。



第1回風土記の丘から

日本大学工学部建築学科卒業設計作品展

当館で初めての開催となった日本大学工学部建築学科卒業設計作品展。美術館ギャラリーに卒業設計作品提出者の中から選抜された12人の優秀作品が展示され、多くの見学者が学生の熱意あふれる作品に見入っていました。

会期中には関連イベントを開催。学生たちのプレゼンテーションと審査会が公開され、作品に込められた意図などを聞いたたり、(公社)日本建築家協会福島地域会所属の建築家の方からの意見を聞く興味深い機会となりました。

またトークイベント『郡山市立美術館』という建築』では、平成四年の開館当時を知る関係者のお話のあと、日大関



係者からのお話をまじえ、時間が足りないと感じられるほどでした。その後、元TAK建築・都市計画研究所の永井久夫さんの建物ギャラリーツアーでは、現場を見ながら設計の意図などを聞く貴重な時間を多くの参加者に楽しんでいたできました。翌週はJIAからのお二人、齋藤史博さんと中山武徳さんに講師を務めていただき、建物ギャラリーツアーを開催。建物について特徴や設計意図をご紹介いただきました。

第1回風土記の丘から 日本大学工学部建築学科卒業設計作品展

2025年2月11日(火・祝)～24日(月・祝)

主催：日本大学工学部建築学科・郡山市立美術館

イベント

●プレゼンテーション・審査会

日時：2月11日(火・祝) 10:00～16:00

審査：(公社)日本建築家協会福島地域会

●トークイベント 『郡山市立美術館』という建築

日時：2月15日(土) 13:00～15:00

講師：永井久夫さん(文化施設プロデューサー/元TAK建築・都市計画研究所)

菅野洋人さん(宮城学院女子大学教授/元郡山市立美術館館長)

浦部智義さん(日本大学工学部建築学科教授)

阿部直人さん(JIA福島地域会会員)

●建物ギャラリーツアー

日時：2月15日(土) 15:30～16:00

ファシリテーター：永井久夫さん

2月22日(土) 11:00～11:30

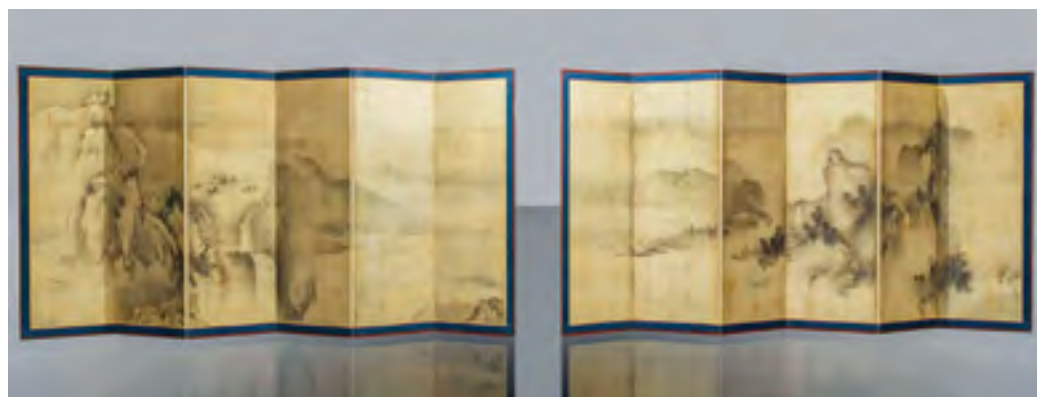
ファシリテーター：齋藤史博さん(JIA福島地域会会員)

14:00～14:30

ファシリテーター：中山武徳さん(JIA福島地域会会員)

雪村周継《四季山水図屏風》

デジタル高精細画像撮影



室町時代の画僧・雪村周継は最晩年、郡山市の西田町に住んだと伝わり、終焉の地とされる現地には雪村庵が再現されています。当館では地域ゆかりの作家の作品として、雪村周継の屏風を収蔵し、数年に1度特別展示しています。今回、普及と保存の観点から高精細デジタル画像で撮影、その画像により複製屏風を作成しました。この事業にはクラウドファンディングを採用し、広くご協力をいただきました。

Report

常設展

令和6年度第4期関連

特別ギャラリートーク

2025年2月24日(月・祝)

場所：常設展示室1

講師：久山雄甫さん(神戸大学)



コレクショントーク

3月20日 展示室4(工芸)

3月22日 展示室3

3月23日 展示室2

4月12日 展示室4(版画)

4月13日 展示室1

令和7年度第1期

コレクショントーク

6月8日 展示室1

6月21日 展示室2

6月22日 展示室4(版画)

6月28日 展示室3

6月29日 展示室4(工芸)

企画展「北川民次展」関連

講演会

「展覧会の舞台裏～北川民次展ができるまで」

2025年2月9日(日)

場所：多目的スタジオ

講師：勝田琴絵さん(名古屋市美術館)



「今村夏海 メキシカンアルパ コンサート」

2025年2月23日(日)

場所：階段ホール

出演：今村夏海さん(メキシカン・アルパ)

武田耕平さん(ギター、ハラナ)

アレックス・メヒアさん(ギターロン)



会期：2025年1月25日(土)～3月23日(日)

ワークショップ

「手作りの卵黄テンペラで描く」

2025年3月15(土)・16日(日)

場所：創作スタジオ

講師：齋藤ナオさん(画家)



ミュージアムシアター「TAKEDA」

2025年3月16日(日)

場所：多目的スタジオ

後援：メキシコ大使館

2017年/メキシコ/ドキュメンタリー

メキシコ国立映画教育センター制作



企画展「武井武雄展」関連

会期：2025年4月19日(土)～6月22日(日)

講演会「武井武雄の生涯と作品」

2025年4月27日(日)

場所：多目的スタジオ

講師：山岸吉郎さん

(イルフ童画館館長)



ワークショップ「本をつくる」

2025年6月7日(土)

場所：創作スタジオ

講師：植村愛音さん(古本と手製本ヨンネ)

河西見佳さん(イルフ童画館)



キッズワークショップ①「光と色であそぼう！」

2025年4月29日(火・祝)

場所：ギャラリーロビー

講師：小池晶子さん(造形プランナー)

こどもバウハウス



キッズワークショップ②「武井武雄デザインのギフトBOXをつくろう」

2025年5月5日(月・祝)

場所：多目的スタジオ

講師：犬塚奈々子さん(イルフ童画館)



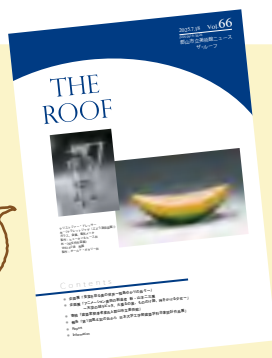
朗読音楽会「朗読とチェロが紡ぐものがたり」

2025年6月14日(土)

場所：階段ホール

出演：渡邊奈美さん(朗読)

懸田貴嗣さん(バロック・チェロ)



表紙の
作品

クリストファー・ドレッサー

左・《クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)》

ガラス、金属、電気メッキ 製作：ヒューキン&ヒース社

右・《刻文舟形容器》1892-95頃 陶器 製作：オールト・ポタリー社

クリストファー・ドレッサー(1834～1904)は英国スコットランド生まれ、19世紀後半に活躍した工芸デザイナーです。陶磁や金属、ガラスなどさまざまな素材の工芸品や椅子などのデザインを手がけ、ミントンやウェッジウッドといった陶磁器メーカーにもデザインを提供しました。ここで紹介しているクラレットジャグは獣足付となっていて、そんなところにも日本美術からの引用が見られるように、日本との関りの深いことでも知られています。

第23回 風土記の丘の美術展

第1期：2025年7月26日（土）～8月1日（金）

郡山ザベリオ学園、日和田小学校、高倉小学校、行健小学校、行健第二小学校、明健小学校、小泉小学校、行徳小学校、安積第一小学校、安積第二小学校、安積第三小学校、永盛小学校、柴宮小学校

第2期：2025年8月2日（土）～8月8日（金）

穂積小学校、三和小学校、多田野小学校、河内小学校、片平小学校、喜久田小学校、熱海小学校、安子島小学校、守山小学校、御代田小学校、高瀬小学校、谷田川小学校、金透小学校

第3期：2025年8月9日（土）～8月15日（金）

芳山小学校、橘小学校、小原田小学校、開成小学校、芳賀小学校、桃見台小学校、赤木小学校、薫小学校、富田小学校、富田東小学校、富田西小学校、大槻小学校、白岩小学校



第22回 風土記の丘の美術展 展示風景

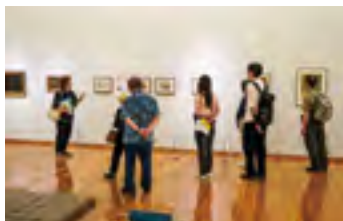
第4期：2025年8月16日（土）～8月22日（金）

東芳小学校、桜小学校、桑野小学校、大島小学校、緑ヶ丘第一小学校、小山田小学校、大成小学校、朝日が丘小学校、宮城小学校、海老根小学校、御館小学校、西田学園、湖南小学校

コレクショントークやってます！

ふだんは5つのテーマで当館のコレクションを紹介している常設展示室は、年に4回展示替えをおこなっています。令和6年度最後の展示から、5つのテーマごとに担当学芸員によるコレクショントークを開催しています。今年度第1期では、武井武雄展終盤の6月の週末に開催しました。ターナー生誕250年を記念した第1室や明治石版画を特集した第3室など、当館ならではの展示についての解説は、参加者に好評をいただいております。

今後も3カ月に1度の展示替えごとにコレクショントークを開催しますので、ぜひご参加ください。（開催の日時は当館ホームページでお知らせします。）



常設展示のご案内

2025年7月9日（水）から9月28日（日）

- 展示室1 語る風景
- 展示室2 草土社とその周辺
- 展示室3 昭和100年—揺らぐ社会と
対峙する
- 展示室4 線を刻む
—エングレーヴィングの世界
食卓を彩る美の世界

TOPICS



営業時間／11:00-17:00
電話／024-942-2250

おすすめのデザートメニューのご案内

●旬のフルーツを使ったパンケーキ ¥890円（税込）

カフェからはおすすめのパンケーキとドリンクのデザートメニューをご紹介します。季節のフルーツを添えたパンケーキは目にも鮮やかなマンゴースーツを合わせて。

●レモンクリームソーダ ¥700円（税込）

夏に人気のレモンクリームソーダなど一緒にいかがでしょうか。デザートとドリンクをセットでご注文されると50円引きとなります。

☆週替わりワンプレートごはん ¥1,100円（税込）

暑い夏、涼しげなメニューでゆったりおくつろぎください。ランチタイムには週替わりワンプレートごはんも人気です。

臨時休業や営業時間短縮の日もございます。あしからずご了承くださいませ。みなさまのご来店をお待ちしております！

